

レディーミクストコンクリート配合報告書

No. _____

平成 年 月 日

殿

日本工業規格表示認証工場
製造会社名：株式会社 菅野建材
工場名：庄和生コン
TEL 048-746-8776 (代)
配合計画者名 菅野 英記

工 事 名 称													
所 在 地													
納 入 予 定 時 期		平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日											
本配合の適用期間													
コンクリートの打込み箇所													
配 合 の 設 計 条 件													
呼 び 方	コンクリートの種類による記号		呼び強度		スランプ 又はスランプ フロー cm		粗骨材の最大寸法 mm		セメントの種類による記号				
	普通		30		10		20		B B				
指 定 事 項	セメントの種類		呼び方欄に記載		空気量		%						
	骨材の種類		使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量		kg/m ³						
	粗骨材の最大寸法		呼び方欄に記載		コンクリートの温度		℃						
	アルカリシリカ反応抑制対策の方法		A		水セメント比の上限値		%						
	骨材のアルカリシリカ反応性による区分		使用材料欄に記載		単位水量の上限値		kg/m ³						
	水の区分		使用材料欄に記載		単位セメント量の下限值又は上限値		kg/m ³						
	混和材料の種類及び使用量		使用材料及び配合表欄に記載		流動化後のスランプ増大量		cm						
	塩化物含有量		0.30 kg/m ³ 以下										
	呼び強度を保証する材齢		日										
使 用 材 料													
セメント	生産者名	住友大阪セメント株式会社				密度 g/cm ³	3.04	Na ₂ Oeq %					
混和材①	製品名			種類			密度 g/cm ³		Na ₂ Oeq %				
混和材②	製品名			種類			密度 g/cm ³		Na ₂ Oeq %				
骨材	No.	種 類	産 地 又 は 品 名		アルカリシリカ反応性による区分	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm ³		絶 乾 表 乾			
細骨材①	砕砂	栃木県佐野市仙波町		A	モルタルバー法	5 以下	3.00	2.65		2.69			
細骨材②	砂	茨城県稲敷市浮島		A	化学法	5 以下	2.10	2.52		2.58			
細骨材③													
粗骨材①	碎石	栃木県佐野市閑馬町(2005)		A	モルタルバー法	20 ～ 5	61.0	2.65					
粗骨材②													
粗骨材③													
粗骨材④													
混和剤①		ポゾリス 15SR		種類	AE減水剤 (遅延型Ⅰ種)				Na ₂ Oeq %	1.4			
混和剤②	製品名			種類					Na ₂ Oeq %				
混和剤③				種類					Na ₂ Oeq %				
細骨材の塩化物量		② 0.001 %				水の区分		上澄水 地下水					
配 合 表 kg/m ³													
セメント	混 和 材		水	細 骨 材			粗 骨 材				混 和 剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
330			169	568	235		994				3.96		
水セメント比		51.3 %		水結合材比		%		細 骨 材 率		44.6 %			
備考					骨材混合比 (容積混合)		細骨材①:②		70.0:30.0				

コンクリート中のアルカリ総量計算書														
配 合 の 設 計 条 件														
呼び方		コンクリートの種類による記号		呼び強度		スラング 又はスラング フロー cm		粗骨材の最大寸法 mm		セメントの種類による記号				
		普通		30		10		20		B B				
指定事項	セメントの種類		呼び方欄に記載				空気量				%			
	骨材の種類		使用材料欄に記載				軽量コンクリートの単位容積質量				kg/m ³			
	粗骨材の最大寸法		呼び方欄に記載				コンクリートの温度				℃			
	アルカリシリカ反応抑制対策の方法		A				水セメント比の上限値				%			
	骨材のアルカリシリカ反応性による区分		使用材料欄に記載				単位水量の上限値				kg/m ³			
	水の区分		使用材料欄に記載				単位セメント量の下限值又は上限値				kg/m ³			
	混和材料の種類及び使用量		使用材料及び配合表欄に記載				流動化後のスラング増大量				cm			
	塩化物含有量		0.30 kg/m ³ 以下											
	呼び強度を保証する材齢		日											
配 合 表 kg/m ³														
セメント		混 和 材		水	細 骨 材			粗 骨 材			混 和 剤			
		①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
330				169	568	235		994				3.96		
アルカリ総量の計算表														
アルカリ総量の計算								判定基準		計算及び判定				
コンクリート中のセメントに含まれる全アルカリ量(kg/m ³) Rc Rc = (単位セメント量kg/m ³) × (セメント中の全アルカリ量Na ₂ Oeq:%/100)								①=Rc		—		Rc = 330 × /100 = 0.000		
								0.000						
コンクリート中の混和材に含まれる全アルカリ量(kg/m ³) Ra Ra = (単位混和材量kg/m ³) × (混和材中の全アルカリ量:%/100)								②=Ra		—				
コンクリート中の骨材に含まれる全アルカリ量(kg/m ³) Rs Rs = (単位骨材量kg/m ³) × 0.53 × (骨材中のNaClの量:%/100)								③=Rs		—		Rs1 = 568 × 0.53 × /100 = 0.000		
								0.001				Rs2 = 235 × 0.53 × 0.001/100 = 0.001		
										Rs = Rs1 + Rs2 = 0.001				
コンクリート中の混和剤に含まれる全アルカリ量(kg/m ³) Rm Rm = (単位混和剤量kg/m ³) × (混和剤中の全アルカリ量:%/100)								④=Rm		—		Rm = 3.96 × 1.4/100 = 0.055		
								0.055						
流動化剤を添加する場合は、 コンクリート中の流動化剤に含まれる全アルカリ量(kg/m ³) Rp Rp = (単位流動化剤量kg/m ³) × (流動化剤中の全アルカリ量:%/100)								⑤=Rp		—				
コンクリート中のアルカリ総量(kg/m ³) Rt Rt = ① + ② + ③ + ④ + ⑤								Rt	3.0	適				
								0.056	kg/m ³ 以下					
備考														